

## 第1部 基調講演

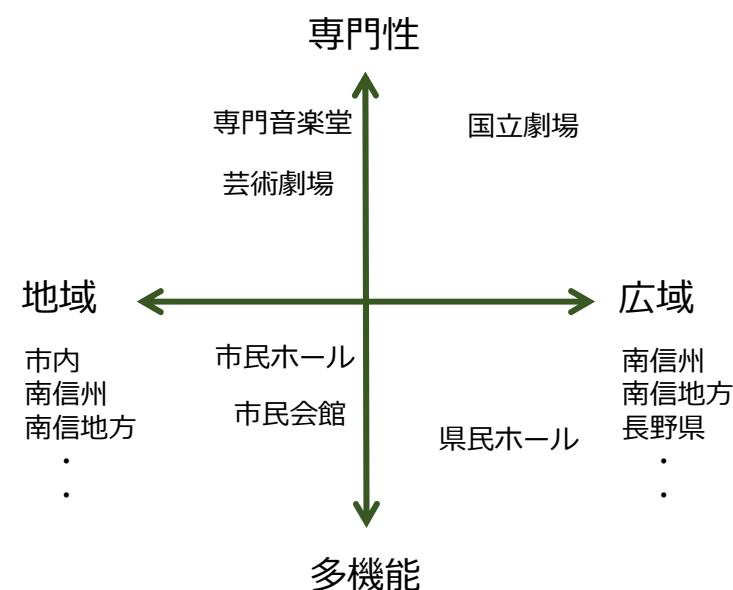
テーマ：全国事例から見えてくる新しい時代の地域の公共劇場の姿

### 公共劇場の果たす役割

- ① 平等・均等に利用機会を提供
- ② 芸術文化に触れる機会を増やす
- ③ 未開拓の市民を耕す  
「ひと、まち、賑わい」をつくる

創造発信型の劇場

### 圏域の捉え方と施設機能の重心



#### 講師の草加さんからの提起 その1：

「地域を意識した“飯田”や“ひろば”といった言葉が何を伝えてようとしているのか、そのためにどんなことをしなければならぬのか、そのための機能は何かをしっかりと考える必要がある」

#### その2：

施設機能を考える上で、「地域性と広域性、専門性と多機能性、この2つの軸の中で重心をどこに置くとよいか考えることが重要。

## 第2部 パネルディスカッション [特別対談]

テーマ：リニア時代の飯田にふさわしい「新飯田文化会館のあり方」

### 論点1

#### 東京・首都圏、名古屋中京圏との関係

・飯田地域のアイデンティティとは？

#### ◆飯田ならではの文化の創造と発信 －オンリーワンを目指す－

山元委員の発言：

「飯田の皆さんは、裏方としても活躍される方が非常に多い  
これは**全国的にみても稀なケース**」

#### ◆時間的距離の短縮を戦略的に活用していく

共通意見：

「リニア中央新幹線が開通することで、劇場へ**都市部からたくさんのお客さんを招く**というのは**現実的に難しい**」

草加氏の提言：

「**時間軸をうまく使っていくことが一つの戦略**になる。地域の舞台芸術の振興に有効・有益な人材の活用（招致）や創造活動のあり方を考える」

### 論点2

#### 創造と鑑賞のバランス

・飯田にふさわしい「ひろば」とは

#### ◆新しい文化会館の多機能性・専門性

草加氏の発言：

「**必ずしも大きな観客席数を持たないと質の高い鑑賞事業ができないわけではない**」、  
「例えば複数のホールの中に専門性を持つ小ホールを持つなど、ある程度**重心を持った多機能ホールをつくる**という考え方も**選択肢の1つ**ではないか」

#### ◆「創客」の視点からのアプローチ

草加氏の発言：

「**時間的短縮というメリットを戦略的に活用**しながら、その地域の人々にとって芸術鑑賞がライフスタイルの一部となるような、「**創客**」の**視点からのアプローチ**が重要」

小澤委員の発言：

「**持続可能な施設の運営の面から、利用者を増やしていくのと同時に観客を増やしていく創客**ということが、車の両輪として本当に大切」

## 第2部 パネルディスカッション [特別対談]

導き出されたキーワード：佐々木委員

### ポイント1 ⇒ 文化会館の戦略的活用

リニア時代には、「**まち、賑わい、人をつくる**」といった役割を劇場に**どう持たせるか**が重要

### ポイント2 ⇒ 時間距離短縮の活用

リニアによる**時間短縮**を、単に人を呼ぶ手段だけでなく、新しい文化会館の**創造活動などに生かしていく視点**が必要

### ポイント3 ⇒ 専門性と多機能の間にある「主目的」

地域の文化施設として飯田周辺エリアを主対象とし

「**主目的ホール+専門的小ホール**」とする考え方もある。

収容しきれない機能は**時間距離短縮を活用して別途供給する**視点も必要